



高齢者支援について

立憲民主えびな 相原 志穂

問 一日のほとんどを家で過ごし、外出しない閉じこもりがちな生活が続くと、筋力や食欲が低下し、認知症やうつなどになりやすくなります。シニア世代の皆さんのが自分らしく生き生き暮らしていくためには、自分にとつての生きがいとは何かを見いだすことが大切な第一歩と考えます。

答 (市長) : 生きがい教室や地域サロンなど、高齢者の居場所における仲間同士の触れ合いや交流は、生きがいづくりや認知症予防の点からも重要な認識しています。今後も、

新型コロナウイルスの感染状況などを見ながら高齢者支援のための各種事業をできる限り展開してまいります。

問 例えれば、総合福祉社会館の1階フロアで囲碁、将棋を楽しんでいる方々がいます。勝負に熱中して長い時間いる方も少なくありません。今回の公共施設附帯駐車場の有料化で危惧されるのはこのような方々です。

いつでも気軽に緩いつながりで、趣味を楽しんでいる高齢者の居場所がなくなることが危惧されますが、今まで通り集まる場所を維持する観点から、減免や代替施設は考えられないのか見解を伺います。

答 (保健福祉部次長) : 減免は、行政目的のために主催する行事、社会活動団体、福祉団体が公共的活動をする場合に围棋や将棋のコーナーを設置する検討など、高齢者の居場所づくりの支援にも取り組んでまいります。

その他の質問

- ・誰もが学びやすい学校づくりについて
- ・誰もが利用できる公園について
- ・平和への取り組みについて



今後の学校運営について

政進会 志野 誠也

問 学習者用デジタル教科書の導入予定を伺います。

答 (教育部参事) : 令和4年度は、国の検証事業として全ての小学校高学年と中学校全年年の1人1台端末に英語の学習者用デジタル教科書が導入される予定です。

学校における電子図書の活用について伺います。

答 (教育部参事) : 市立図書館に電子図書館が導入される予定であり、1人1台端末を活用して、市内小中学校の授業や課外活動での電子図書館の活用を目指しています。

問 不登校児童生徒への端末の活用状況について伺います。

答 (教育部参事) : 端末の活用について、各担当の教員とともに協議を行っています。オンライン授業を提供できる環境は整っていることから、児童生徒に合ったやり方を工夫しながら、安心かつ効果的な活用を進めています。

問 学級閉鎖時の端末の活用状況について伺います。

答 (教育部参事) : 学級閉鎖時は端末の持ち帰りを行い、課題の配布やオンライン会議システムでコミュニケーションを取るなど児童生徒の状況に応じて活用しました。

問 学級閉鎖時の情報の公表のあり方にについて伺います。

答 (教育部参事) : 市内の感染状況を明らかにし、家庭などでの感染対策を徹底してもらう必要があるため、3月から学級閉鎖については学校名と学級数を公表しています。

問 ワクチン接種の有無によって教育活動に差が出ることがあつてはならないと考えますが見解を伺います。

答 (教育長) : ワクチン接種の有無によって学校教育活動を制限することはありません。

その他の質問

- ・成果運動型民間委託契約について
- ・方式(PFS)の導入について
- ・ついて



えびな元気な時代における えびな元気な振興計画の推進について

立憲民主えびな 黒田 ミホ

問 今後、ウィズコロナ時代を見据えて、新しい生活様式が習慣化していく中、えびな元気な時代における振興計画2021の実行計画でも、従来とは異なる手法でえびな創出の検討が必要と考えます。現状の課題と方向性を伺います。

答 (市長) : 本計画は、3カ年の実現性の高いアクションプランとして15施策39事業を定めたもので、本市ならではのぎわい地域資源を活用し、市内回遊の促進などを目指します。しかし、コロナの影響でえびな創出するイベントの中止や規模縮小など事業の見直しの対応が求められました。ウイズコロナを踏まえ、今後の事業展開を考える時期と思っています。

問 コロナ禍の中で、少人数で市内を巡るなど実施方法を工夫された、にぎわい振興ガイド事業について伺います。

答 (経済環境部次長) : 本事業は、今年度2回実施し60名の参加があり、1グループ4、5人で市内の各所などを巡り、密集せずにガイドの説明が聞けるため、幅広い世代の方に安心して参加いただけました。また文化財だけでなく海老名サービスエリアや名店での買い物など、より広く地域資源を活用し実施しました。来年度は、摘み取りや農産物の買い物も加え、繰り返し訪ねたくなるような地域の魅力を発信し、にぎわいにつながるよう取り組みます。

問 にぎわい振興は、地域資源の情報発信が重要ですが、来年度は、どのような取り組みをされるのでしょうか。

答 (経済環境部次長) : コロナ禍では、非接触型の情報発信の役割は重要です。来年度は、にぎわい創出を目的としたホームページ「えびなめぐり」のデザインを一新し、視覚的にわかりやすく利用者の機能向上を図るためにリニューアルします。また回遊促進のため、徒步などで巡るモデルコースの紹介を加え、さらなる魅力発信に努めます。

その他の質問

- ・民生委員・児童委員の担い手確保と活動支援について